［ワークライフバランス］

7 4歳の子どもを連れて学会に参加してみた

基 般

鈴木　優 | 岐阜大学

プロローグ

ある日突然，4歳の子どもを連れて学会へ参加することになりました．

私には2017年当時，3歳と1歳の2人の息子がいました．妻は2人を，片道1時間かけて幼稚園へ毎日送迎します．夜は6時半ごろには夕食を済ませ，8時には寝かせるのが毎日の日課です．

2017年8月30日午後6時30分，私は早めに帰宅して，家族全員で夕食を食べていました．このとき，妻の体調が悪いことに気付いたため，慌てて自宅付近の病院へ連れて行き受診させることにしました．ところが状況は思ったより悪く，この病院では面倒を見られないと言われました．病院から救急車で運ばれ，県で一番大きな病院へ連れて行かれました．その病院で主治医に，最低1カ月の入院が必要で，いつ退院できるか分からないと言われました．2人の小さな息子を，私が1人で少なくとも1カ月以上（結果的には約1年間）育てなければならないことが決まった瞬間でした．診察が終わったときには午後11時を過ぎており，2人の息子は私の肩の上とお腹の上で熟睡してしまいました．

9月には，2つの学会へ参加する計画をしていました．1つは本会DBS研究会などが主催するWebDB Forum，もう1つは本会と電子情報通信学会が共催するFITです．参加を取りやめる選択肢はありましたが，子連れで学会に参加するための制度が整備されつつあることから，1歳の子どもは義母に預け，3歳の子どもを連れて参加することにしました．

大学からの支援

当時私は奈良先端科学技術大学院大学に勤務していたため，男女共同参画室から情報や金銭的支援などさまざまな支援を得ました．特に助かったのは，出張時保育支援です．この制度では，学会出張などで子どもを出張先に連れて行くとき，託児サービスの利用料全額を大学が支援するというものです．たとえば国内で3日間開催される学会では，託児サービスを利用するだけでおよそ1回10万円程度の費用がかかります．これを大学で負担していただけるのは大変ありがたかったです．

WebDB Forum

WebDB Forumは，2017年は東京のお茶の水女子大学で開催された中規模の研究会です．幸運なことに，2017年から託児サービスの提供が開始されました．利用料は無料で，夕食を除く学会期間中は利用することができました．

ただ，子ども連れで参加することが考慮されていないことから，問題点もありました．この学会では私は表彰担当の委員だったため，懇親会や表彰式など，夜6時から9時ごろまで参加する必要がありました．先に述べた通り，子どもの通常のスケジュールでは8時までに夕食や入浴を終えて就寝するため，これらに参加することはほぼ不可能です．学会側にもスケジュールには制約があるため子どもの都合に合わせてもらうことは困難ですが，今後解決しなければならない課題であると感じました．

この学会の最中に3歳の息子は誕生日を迎え，4歳になりました．ただ私には気持ちや時間の余裕がなく，誕生日を祝ってあげることができませんでした．関西にはないファミリーレストランのジョナサンで夕食を食べ，息子の大好きな観覧車に乗せるだけで精一杯でした．

FIT

FIT（情報科学技術フォーラム）は数千人が参加する，情報系の中では最大級の規模の学会です．2017年は，東京大学本郷キャンパスで開催されました．ところが託児サービスについて，Webページには一切の記述がありません．そこで，事務局に問い合わせたところ，託児サービスは予定しておらず，提供をする準備も余裕もないという連絡をいただきました．

プロローグで起きた出来事は，FIT開催の約2週間前のことでした．大規模な組織で運営されている会議であるため，急に要望を出されても対応することができないという返答でした．上で述べた大学からの支援により，自力で託児施設を探し出し，利用した上でFITへ参加しました．なお，それから約1年程度経過した後もFITが開催されましたが，結局託児サービスは提供されなかったようです[☆1]．

子育て支援への議論

現在の世の中における議論では，子育てと女性の社会進出という，似ているようで本質的に異なる話が混ぜて議論され，本当に必要な支援が置き去りにされていると感じます．男性が1人で子育てをしなければならない状況が発生したわけですが，この状況を支援する機関は，大学や企業，研究機関，学会，政府機関などを含めてまったくありません．女性の社会進出は重要な課題ですが，それとは別に，子育てが女性だけのものではないことを前提とした制度設計が必要であると感じます．

多くの大学では，男女共同参画に関する部署が存在します．ところが，女性が社会進出する上での意識を改革することが主な目的であることが多く，私のように男性が子育てに困っているという状況に支援が得られることはきわめて稀です．事実，2019年現在，出張時保育支援を行っている大学を私が調査したところ，奈良先端科学技術大学院大学（全額補助），山形大学（年間で最大1万円の補助）以外に見つけることができませんでした．

支援が必要な状況は誰でも発生する可能性があります．それは，誰も想定していなかった状況かもしれません．人はその状況に遭遇しなければ，必要な支援の手段を想像することは大変難しいです．支援には財源や手間などが必要になります．どのような状況に対しても，必要な支援を必要な分だけ受けることが可能な制度を今後設計することが，今後大切となると考えます．

エピローグ

プロローグでの事件から1年後，妻は家に帰ってきました．0歳の小さな子どもを連れて．2019年7月現在，私の家には，私と妻と，5歳と3歳と1歳の3人の息子がいます．5歳になった息子は2年経った今でも，2週間近く東京へ（彼にとっては遊びに）行ったときの楽しかった思い出を私に話してくれます．いつか家族全員で東京へ行き，学会へ行ったときに立ち寄ったジョナサン，東京ドーム，観覧車などを観光したいです．

（2019年4月22日受付）

■鈴木　優（正会員）　ysuzuki@gifu-u.ac.jp

岐阜大学工学部電気電子・情報工学科特任准教授．専門はデータ工学，データ管理，クラウドソーシング．本稿における出来事はすべて，私が奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科特任准教授であったときのものです．

☆1　2019年FITから託児室が設置されました．